

9. $X^T X$ は非負定値対称行列なので、
直交行列 V を用いて、

$$V^T X^T X V = \begin{pmatrix} \sigma_1 & & 0 \\ & \ddots & \\ 0 & & \sigma_p \end{pmatrix}$$

と表せる。

$$\begin{aligned} & V^T (X^T X + N\lambda I) V \\ &= V^T X^T X V + N\lambda I \\ &= \begin{pmatrix} \sigma_1 + N\lambda & & 0 \\ & \ddots & \\ 0 & & \sigma_p + N\lambda \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となるから、

$X^T X + N\lambda I$ の固有値は $\sigma_1 + N\lambda, \dots, \sigma_p + N\lambda$ である。

また、 $\det(X^T X) = \sigma_1 \cdots \sigma_p$ より、

$X^T X$ に逆行列が存在しない条件は、

「 $\sigma_1, \dots, \sigma_p$ のうち少なくとも一つが 0」である。

$\det(X^T X + N\lambda I) = (\sigma_1 + N\lambda) \cdots (\sigma_p + N\lambda)$ より、

$\sigma_1, \dots, \sigma_p \geq 0$ と $\lambda > 0$ ならば、

$X^T X + N\lambda I$ の行列式はつねに 0 より大きいので、

必ず逆行列が存在する。